

日本生殖看護学会

ニュースレター

No.

63

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

目次

・第20回日本生殖看護学会学術集会を振り返って	1
・第20回日本生殖看護学会学術集会 一般演題発表 優秀賞を受賞して	2
・2022(令和4)年度日本生殖看護学会書面総会議事録	3
・2022年度 予算書	4
・学会誌に投稿しよう!	4
・これから行われる学術集会・研修会情報(2022年11月～2023年2月)	5
・不妊症看護認定看護師 リレー寄稿 No.20	5
・研究結果をどう臨床に応用するか	6
・理事会報告	7
・日本生殖看護学会のホームページをリニューアルしました!	7
・事務局からのお知らせ	8
・会員数 MAP	8
・原稿を募集しています!	8
・編集後記	8

第20回日本生殖看護学会学術集会を振り返って

第20回日本生殖看護学会学術集会長 株式会社ファミワン 不妊症看護認定看護師 西岡有可

先日9月25日をもって第20回日本生殖看護学会学術集会の会期が終了いたしました。多くの方のご協力をいただきまして、無事学術集会を開催することができ、約370名の方に参加いただきました。参加後のアンケートからは、「たくさんの情報が得られ、知識のアップグレードができた」、「今回で学んだ事を患者さんへの情報として看護に繋げたい」、「不妊治療の保険適用の現状や課題について共有でき参考になった」等と声をいただいております。また、優秀賞は、研究から「不妊治療中の男性におけるQOL低下防止のためのパートナーシップオンラインプログラムの効果」、実践から「企業内における不妊治療と仕事の両立のための手引作成における取り組み」に決定いたしました。

本学術集会のテーマである「SDGsの視点から性と生殖の健康を再考する」を決定した時は、SDGsという大変大きなテーマを研究や臨床などさまざまな立場の看護者にとって価値ある学会にするためにはどうしたらいいかと悩みました。アカデミックな印象のあるテーマだけでも、明日の臨床に役立つ内容を盛り込みたいという思いと、現在の生殖看護を取り囲む様々な分野の方の話を届けたいという思いから、総勢16名の方に登壇いただくことになりました。

特別講演では「SDGsと生殖看護」という、そもそも私たちの看護はSDGsとしてどのような役割があるのかを再考することを目的としました。そして特別講演やシンポジウムでは現在大変大きな変容の中にある「不妊治療の保険適用化」をトピックといたしました。国・医師・看護師・患者それぞれの立場から

見る「不妊治療の保険適用化」を知ることができました。情報のアップデートにもつなげることができました。また、「すべての人の性と生殖の健康」についてのシンポジウムや協賛セミナー「様々な視点から見る女性の健康課題とその支援」では、政治・企業・医療・NGOと様々な側面からどのようなサポートが行われているのか、また望まれているのかということをお勉強することができました。そして、協賛セミナー「TRIO検査をめぐる患者の想いに寄り添う検査サービスと看護の現場から」では、検査会社も患者をサポートするチームメンバーであるという新しい認識が生まれたように思います。

参加された皆様にとって、一つでも学びになる内容がありましたでしょうか。本学術集会そのものが「誰一人取り残さない」社会の実現の場となることができたのではないかと感じています。学術集会を通して、自分ができているSDGsとは何かを考えるきっかけとなり、明日の生殖看護に少しでも生かすことができるものを持ち帰っていただけていると嬉しいです。

学術集会運営にあたり、不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけすることも少なくありませんでした。サポートいただいた皆様に深く感謝いたします。今回の学術集会はこれまで先輩方が大切に築き上げてきたものを一つの形にし、紡がれたバトンを受け取り第21回の学術集会につなげることができたらと動画の企画をさせていただきました。「この学会行ったよね」「あの時はこうだったよね」と思い出していただけたでしょうか。来年、また気持ち新たに学びを深めることができる機会を楽しみにしております。

第20回日本生殖看護学会学術集会 一般演題発表 優秀賞を受賞して

「不妊治療中の男性におけるQOL低下防止のためのパートナーシップオンラインプログラムの効果」

東京医療保健大学 朝澤恭子

この度は優秀賞に採択していただきまして誠にありがとうございました。大変、光栄に存じます。私達の演題は、不妊治療中の男性患者様に向けたQOL低下防止のためのパートナーシップ支援プログラムの効果でした。COVID-19感染拡大下において、スマートフォンやPCを用いて自宅や待合室で参加できるオンラインプログラムを実施しました。多くの男性患者様より、使い勝手や内容へのコメントをいただき、ありがたかったです。看護研究をすすめられたのは、ご協力くださった患者様、クリニックのスタッフの皆様、共同研究者のおかげです。心より感謝しております。この場を借りてお礼を申し上げます。

「企業内における不妊治療と仕事の両立のための手引作成における取り組み」

株式会社コロプラ 前出瞳

発表のきっかけは、日ごろの支援について演題を応募してみませんか、と学術大会長の西岡様より声をかけて頂いたことです。最初は自信がなく躊躇いたしましたが、発表内容をまとめることは、普段は忙しくて難しい振り返りを行ういい機会となりました。今回発表いたしました支援の取組は、日ごろ産業保健相談窓口担当者として従業員皆様の悩みを聴く中で、どうしたら不妊治療中の方の心身の負担軽減が社内で行えるか考えたことから始まります。厚生労働省が発行する両立支援に関するデータも確認しながら、不妊治療中の従業員の方と一緒に働く管理職の方の理解を深めることがまず重要ではないかと考えました。手引作成はその手段の一つになりますが、振り返りを行うことで本当に不妊治療中の方の心身の負担軽減に繋がっているのか、と改めて深く考える機会にもなりました。今後の課題も再認識することができたので、更によりよい看護に繋げていきたいと思っております。最後になりますが、今回このような栄誉ある賞を頂くことができましたのも、日ごろの活動に理解を頂いている従業員の皆様をはじめ、発表を応援して下さった上司・同僚の皆様のおかげです。この場を借りて感謝いたします。ありがとうございました。

2022(令和4)年度日本生殖看護学会書面総会議事録

2022(令和4)年度の総会は前年度に引き続いてCOVID-19の収束が見通せない状況を勘案し、書面総会を予定し実施した。

期間は2022(令和4)年9月22日～2022(令和4)年10月17日まで(必着)とした。

1. 議案について

報告事項

- 1) 理事会報告
- 2) 総務(事務局)報告
- 3) 事業報告
- 4) 2021(令和3)年研究助成申請結果
- 5) 第21回学術集会と集会長について

審議事項

- 1) 2021(令和3)年度収支決算ならびに会計監査
- 2) 設立20周年記念事業-生殖看護テキストの出版-ならびに募金計画
- 3) 2022(令和4)年度事業計画
- 4) 2022(令和4)年度収支予算

送付資料

- ・2022(令和4)年度 日本生殖看護学会 総会要綱
- ・資料「生殖看護テキストの企画と出版に関する経過説明」
- ・日本生殖看護学会 設立20周年記念事業-生殖看護テキストの出版-募金趣意書
- ・2021(令和3)年決算書・2022(令和4)年予算書
- ・議決権行使書兼委任状ハガキ

2. 決議結果について

会員325名に議案送付し、115名(回収率35.4%)の返信があった。会則第18条により、開催成立。賛成89、反対4、委任状22、無効0。

審議事項1)～4)すべてに対して賛成が89名、審議事項2)設立20周年記念事業・生殖看護テキストの出版ならびに募金計画に対してのみ反対があり4名であった。

以上より、多数決をもって審議事項はすべて承認とみなされた。

反対理由として、テキストの必要性・需要性への疑問、繰越金の使途検討の必要性、会員へのテキスト無料配布及び寄付の中止を求める意見などが挙げられていた。

(議事録作成者：森明子)

2022年度 予算書
(2022年9月1日から2023年8月31日まで) 日本生殖看護学会

一般会計

収入の部

(単位：円)

大科目	小科目	予算額	備考
会費収入	年会費	2,580,000	320名×8,000円 2名×10,000円
研究助成金積立金		938,144	特別会計より
繰越金	前年度繰越金	8,983,976	
総収入合計		12,502,120	

支出の部

科目	小科目	予算額	備考
会 議 費	理事会会議費	300,000	1回の対面理事会を含む 往復はがき代
	総会費	80,000	
事業費	広報委員会	445,000	ニューズレター年3回発行・リーフレット印刷 地区セミナー開催・ポストコース開催 Fine祭り相談員の派遣 学会誌発行 研究促進研修会・研究助成金 第21回学術集会補助費
	教育推進委員会	360,000	
	実践開発委員会	50,000	
	編集委員会	400,000	
	将来検討委員会	400,000	
	学術集会補助費	500,000	
事務費	人件費	350,000	アルバイト(PC入力) セキュリティアップデート等
	通信費	80,000	
	消耗品費	140,000	
	HP管理料	100,000	
団体登録料	日本看護系学会協議会	80,000	特別会計へ
	看護系学会等社会保険連合	70,000	
	日本カウンセリング学会	10,000	
20周年記念事業費		3,000,000	
支出合計		6,365,000	
予備費等		6,137,120	
総支出合計		12,502,120	

特別会計：20周年記念事業費(生殖看護ガイドブック作成)

(単位：円)

小科目	予算額	備考
20周年記念事業	3,000,000	一般会計より
寄付	1,000,000	1口2,000円×500口
合計(A)	4,000,000	

学会誌に投稿しよう！

日本生殖看護学会誌(第20巻第1号)への投稿締切:2022年11月25日(金)

皆様が行った研究や実践を論文として形にすることは、生殖看護に携わる看護職の皆様へ知識を与え、広く活用されることにより看護の質の向上につながります。研究に協力して下さった方々へ感謝の気持ちを示すことにもなります。学術集会でご発表下さいました皆様、投稿にチャレンジしてみませんか？

投稿に関する詳細は、学会ホームページの「論文投稿規定」をご確認ください。

たくさんのご投稿をお待ちしております！

<原稿送付先・ご連絡先>

〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学 広域・発達看護学講座 實崎 美奈 宛

これから行われる学術集会・研修会情報 (2022年11月～2023年2月)

月	日	学会・研修会名	会場	学会HP/運営事務局
11月	3日～4日	日本生殖医学会学術集会 (第67回) 「生殖医療と社会」	パシフィコ横浜会議センター (神奈川県横浜市)	http://www.congre.co.jp/jsrm67/index.html 【運営事務局】 株式会社コングレ 〒103-8276 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング TEL: 03-3510-3701 FAX: 03-3510-3702 E-mail: jsrm67@congre.co.jp
	3日	生殖医療コーディネーター講習会	パシフィコ横浜会議センター (神奈川県横浜市)	http://www.jsrm.or.jp/qualification/coordinator_training.html
	12日～13日 (オンデマンド配信: 11月29日～ 12月12日)	日本女性医学会学術集会 (第37回) 「ホルモン依存性疾患を極める -女性医学の視点から」	米子コンベンションセンター・米子市文化ホール (取県米子市)	https://www.kwcs.jp/jmwh37/index.html 【運営事務局】 株式会社キョードープラス 〒701-0205 岡山市南区妹尾2346-1 TEL: 086-250-7681 FAX: 086-250-7682 E-mail: jmwh37@kwcs.jp
12月	12月3日～4日	日本看護科学学会学術集会 (第42回) 「ケアサイエンスの構築に向けて 看護科学の深化と発展」	広島国際会議場・ 広島市文化交流会館 および JMSアステールプラザ (広島県広島市)	http://square.umin.ac.jp/jans42/index.html 【運営事務局】 株式会社インターグループ 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館4F TEL: 03-5549-6912 FAX: 03-5549-3201 E-mail: jans42@intergroup.co.jp
	17日～18日	日本生殖内分泌学会学術集会 (第27回)	広島コンベンションホール (広島県広島市)	https://www.c-linkage.co.jp/jsre27/index.html 【運営事務局】 株式会社コンベンションリンクージ内 〒732-8575 広島市東区二葉の里 3丁目5番4号 広テレビル TEL: 082-236-8021 FAX: 082-567-2301 E-mail: jsre27@c-linkage.co.jp
2月	25日～26日	日本がん・生殖医療学会学術集会 (第13回) 「患者支援のための連携と意思決定の在り方 ～埼玉県から発信する学際的連携と 共有意思決定の提言～」	大宮ソニックシティ (埼玉県さいたま市)	https://www.j-sfp.org/about/meeting.html 【運営事務局】 株式会社ヒューマンリプロ・K 〒226-0003 横浜市緑区鴨居6丁目19-20 TEL: 045-620-7560

不妊症看護認定看護師
リレー寄稿

No.20

「今までの活動を振り返って」

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 加藤佳代子

私は、認定看護師の一期生です。早いもので認定看護師となり来年で20年という節目の年となります。同期からバトンを引き継ぎ今までの活動を振り返り、現在の活動を報告させていただきます。

総合周産期母子医療センターで助産師としての経験を活かして不妊治療後に携わりたいという思いで、認定看護師取得後、現施設に入職しました。

入職後は産科病棟に配属され、助産師として働きながら、「たんぼぼ外来」を開設し不妊相談外来を開始しました。外来患者だけでなく、治療と仕事との両立についてなど、職員の相談が多くなり、管理職向けの勉強会も開催しました。その後、仕事と子育てを両立しながら、外来へ移動となり、夜勤は産科病棟で勤務し、日勤は産婦人科外来で6年勤務しました。外来では、他科のスタッフとの人脈ができ、他部門の認定看護師から、コンサルテーションを受け、腎移植後の妊娠希望、がんの妊孕性温存、染色体異常などの患者さんからの不妊に関する相談を受けようになりました。より多くの専門性の高い知識を必要とする中で認定看護師としての限界を感じつつ、不妊治療を開始するか否かの意思決定支援に力を注ぎました。その後管理職となり、再び産科病棟へ移動し、卵子提供での妊娠、里親への対応、性暴力支援看護師としても活動を開始し、思いがけない妊娠をした方への対応を行いながら日常業務を行いながら活動しました。現在は、GCUに勤務し医療的ケアを必要とする児への在宅支援への対応と両親への支援をしています。両親への支援をする中で、不妊治療後の方への対応では、妊娠前からの児への思いを汲み取りながら対応しています。

今までの活動を振り返ると、自分自身の活動は、部署移動や組織として求められている役割の変化に伴い、常に変化してきました。しかし、看護実践する上で認定看護師としての視点はどの部署でも看護をする上で大変役に立ちました。

自分の意に沿わない役割の変化や認定看護師としての活動に悩んでいる認定看護師の皆さん！与えられた現状の中で、認定看護師としての視点を持ち続けていればどこでもその力は発揮できると思います。

次は、トヨタ記念病院の吉川典子さんです。

研究結果をどう臨床に応用するか >>>>>>

エビデンスの構築にむけて：研究論文の紹介

湘南鎌倉医療大学 森明子

Influence of a patient education and care program on women undergoing non-assisted reproductive technology fertility treatment (非生殖補助技術による不妊治療を受ける女性に対する患者教育およびケアプログラムの影響)

Mori A, Nishii O, Takai Y, Momoeda M, Kamisawa E, Shimizu K, Nozawa M, Takemura Y, Fujimoto A.
DOI: 10.1002/rmb2.12406

【研究目的】

一般不妊治療を受けている女性患者に対する患者教育とケアのプログラムのQOLに及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

【研究方法】

研究期間は2017年4月28日から2020年3月31日であった。13施設において、研究協力の同意の得られた一般不妊治療を受けている、治療開始から2年未満で42歳未満の女性を対象とした。通常管理群104名には通常ケアを受けてもらった。プログラム群69名には3回のプログラムをベースライン・3か月後・6か月後に受けてもらった。はじめに通常管理群のデータ収集を行い、後にプログラム群にプログラムを行う時系列デザインの準実験研究である。プログラム目標は1 自分の不妊症、不妊治療について、不妊因子、治療目的、治療方法を説明することができる、2 疑問点を明らかにする、質問する、調べるなどの患者行動をとることができる、3 自分の健康状態を観察し、治療による変化や影響について説明することができる、4 治療の方針や計画に対して、自分の意向と見通しをもち、適宜医療者に伝えることができる、5 自分の生活習慣を振り返り、治療と生活を調整し、治療生活の設計・管理ができる、6 自分のストレスマネジメントができる、とした。プログラム・ツールとして、①小冊子「不妊症指導管理プログラム検査・治療」、②小冊子「治療中の生活を快適に過ごすために」、③「マイ治療ノート」、④「患者相談問診票」、⑤「プログラム目標達成度評価票」を作成した。プログラム実施者は、各協力施設の婦人科外来の医師および看護師1～2名とし、あらかじめ研究者が企画したプログラムについてのガイダンス・研修会を受け、十分に理解したうえで臨んでもらった。プログラム実施には少なくとも30分を確保し、患者対応に専念してもらった。プライマリアウトカム指標は健康関連QOLのSF-36v2、セコンダリアウトカム指標は妊娠問題QOLのFertiQoLを用いた。属性に加えて、その他、妊娠成立の有無、妊娠成立までの期間(治療開始から妊娠判定陽性までの日数)、不妊治療費、治療脱落などを評価項目とした。

【結果】

SF-36v2、妊娠に要する期間、妊娠率、治療脱落率に2群間の差はなかった。FertiQoLについては、反復測定混合モデルによる分析の結果、下位尺度の治療FertiQoL($p=0.004$)及び治療の忍容性($p=0.043$)において治療開始から3か月後に2群間に有意差がみられ、QOLは通常管理群よりプログラム群が高かった。つまり、プログラムを受けた患者群は、通常管理を受けた患者群と比べて、医療スタッフとの関係や患者の理解・サービスに対する評価や満足度、治療に耐え忍ぶ力が高かった。また、1人の妊娠成立に要した治療費は通常管理群304,589円と比べてプログラム群155,707円は安価に抑えられていた。

本研究は、不妊治療に対する患者への説明・指導・相談を行った場合に指導管理料として診療報酬を何とかして確保できないものかという願いから、2つの学会員間で協力し合い、研究計画書を作成し、科研申請の結果、助成金を得て実施されたものである。それまで、人工授精を除く一般不妊治療の多くは保険診療で賄われていたが、医師やナースが治療に関する説明・指導し相談に乗っても診療報酬の点数が付かなかった。それらを行うことでの影響・効果に関するエビデンスがなく、患者にとって必要で有益になるかどうかを研究によって確かめる必要があった。

令和4年の診療報酬改正の折に、体外受精・顕微授精等の生殖補助技術が保険適用となり、合わせて、一般不妊治療における指導管理についても、「一般不妊治療管理料」として3月に1回250点が認められるようになった。この背景には本研究によるエビデンスが裏打ちされていることを忘れていただきたいと思います。ご協力いただいた会員の皆様、患者様方にあたためて御礼を申し上げる次第である。

そして、これからも私たちは生殖補助技術や不妊治療を受ける方々の力になれるような、新たなエビデンスづくりを目指す必要がある。

理事会報告

第3回 Web 理事会

日時：2022年8月19日(金)18:00～20:30

方法：Zoom

出席者：上澤，森明，實崎，崎山，坂上，清水，奥島，
中村，村本，野澤，小松原，森恵，
西岡(オブザーバー) (敬称略)

【報告事項】

1. 第20回日本生殖看護学会学術集会について
2. 学会ホームページ作成の進捗状況について
3. 研究助成応募の現状について
4. 学会誌第19巻1号の発刊、第20巻1号の準備状況について
5. Fine 祭り相談員について

【審議事項】

1. 書面総会の開催時期および20周年記念事業のための寄付金等について
2. 研究助成及び活動助成について
3. 2021年度 収支決算(案)および2022年度 予算(案)について
4. 総会要綱について
5. 第21回 JSFN 学術集会長について
6. 入会審査：4名の入会を承認

第4回 Web 理事会

日時：2022年9月15日(木)18:00～19:10

方法：Zoom

出席者：上澤，奥島，森明，實崎，崎山，坂上，中村，
野澤，森恵，西岡(オブザーバー)

欠席者：小松原，清水，村本

【報告事項】

1. 第20回日本生殖看護学会学術集会終了の報告について
2. 学会ホームページ作成の進捗状況、ニュースレター原稿の依頼について
3. Fine 祭り相談員人数変更について
4. 看保連対応 WG：2022年度総会、第1回合同委員会について

【審議事項】

1. 総会要綱、20周年記念事業 募金趣意書等について
2. 2021年度 収支決算書(案)および2022年度 予算書(案)について
3. 退会審査：14名ならびに強制退会4名の計18名の退会を承認

日本生殖看護学会のホームページをリニューアルしました!

<https://jsfn.org/>

2022年11月1日に、ホームページをリニューアルしましたので、お知らせします。今回のリニューアルでは構成やデザインを全面的に刷新しました。今後、マイページ機能を加え、会員の皆様にとって使いやすいホームページへと形を変えていきます。

特徴は、以下の4点です。

- ①マイページが加わると、住所や氏名の変更、年会費支払いの確認などができるようになります。
- ②学会誌へのオンライン投稿ができるようになります。
- ③講演やセミナーの講師依頼、臨床での困りごとの相談ができるようになります。
- ④携帯電話からもホームページが閲覧しやすくなりました。

リニューアルにともない、URLが変更になりましたのでブラウザの「お気に入り」「ブックマーク」などに登録されている場合は、新しいページのURLへの登録変更をお願いします。これからも、引き続き会員の皆様の役に立つ情報の提供や、内容の充実に努めてまいります。



ホームページ

事務局からのお知らせ

1. 第21回学術集会、編集委員会への問い合わせは、それぞれの事務局に直接お願いいたします。
2. 日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、ホームページ、ニュースターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailで、気軽にご連絡ください。
3. 学会の年会費は8,000円です。会費納入は事業運用上、できるだけお早めをお願い申し上げます。
4. 異動・転居された方は必ず事務局までお知らせください。住所・勤務先変更届はホームページからダウンロードできます。宛先不明ですと、ニュースター、学会誌をお届けすることができませんので、ご協力お願い申し上げます(ホームページのリニューアル後はマイページより住所・勤務先変更が可能になります)。
5. 会員数344名(2022年8月31日現在)です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます(ホームページのリニューアル後はホームページ画面より入会申込みが可能になります)。

日本生殖看護学会

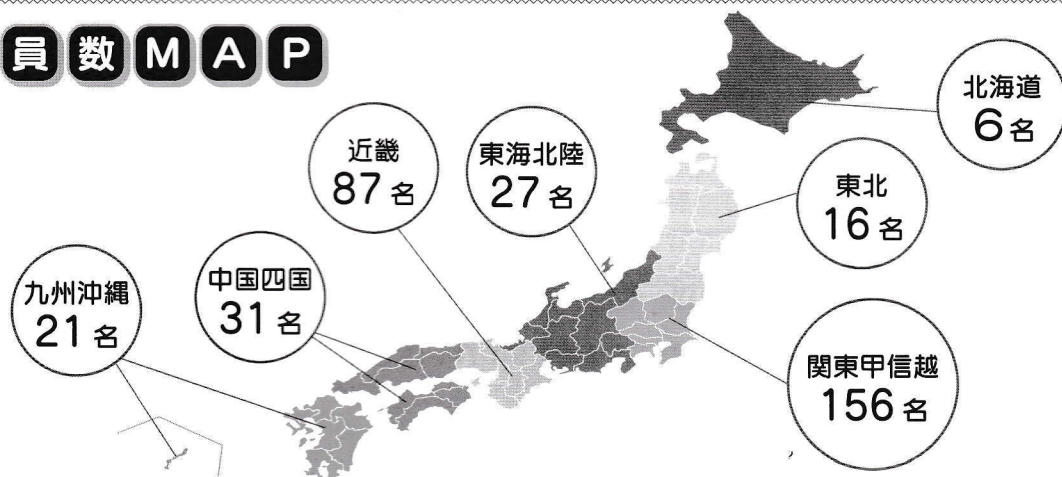
Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22 東京工科大学医療保健学部看護学科内

E-mail : jsfnjimu@gmail.com ホームページ <https://jsfn.org/>

口座番号 : 00170-2-333413 加入者名 : 日本生殖看護学会

会員数MAP



原稿を募集しています!

ニュースターを通じて実践活動や勉強会などの情報を共有しませんか? 掲載を希望される方は広報委員会(sakiyama.takayo@gmail.com)までご連絡ください。次号の原稿締切日は2023年1月20日(金)を予定しています。

編集後記

9月8日にイギリスのエリザベス女王が亡くなりました。多くの番組を見て感じたことは、イギリス国民の国への愛着が強いものであるということです。このような国への愛着や誇りは一人ひとりがもつ自己効力感とも関係しているのですね。これは親子や夫婦間での愛着と個人の自己効力感の関係とよく似ているなあと思いつつ報道を見ていました。

広報委員会 崎山貴代、阿部正子、小池弘子